

正義論とジェンダー
—規範の語り手は誰か—¹

日本哲学会・立命館大学 神島裕子

1. コロナ禍とジェンダー

SDGs の理念のひとつに「誰も置き去りにしない」(Leave No One Behind) がありますが、2020 年初頭からはじまったコロナウィルス・パンデミックとコロナ禍は、いわゆる先進国においても、人々が容易に置き去りにされてしまうこと、つまり放置され、その苦境を自己責任とされてしまうことを明らかにしてきました。なかでも女性の福利（ウェルビーイング）が脆弱な基盤の上になりたっていることが再確認されましたが、生理用品を入手できない「生理の貧困」が世界的に驚きをもって伝えられるなど、これまで公共的に語られてこなかった領域においても苦境があることについても、ひろく認識されるようになりました。

コロナ禍は日本においても同様の問題を提起しています。内閣府男女共同参画局は、そのホームページで「特集 コロナ下で顕在化した男女共同参画の課題と未来」として、以下のように述べています。

新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」という。）の感染拡大は、各国の弱いところを露わにした。我が国においては、男女共同参画の遅れが露呈することになった。

新型コロナの感染拡大は、令和 2（2020）年の年明け頃から世界規模で人々の生命や生活に大きな影響を及ぼしている。とりわけ女性への影響が深刻である。経済的な影響を見ると、女性の就業が多いサービス業等の接触型産業が強く影響を受けたことから、製造業が強い影響を受け「男性不況」ともいわれた平成 20（2008）年のリーマンショックと対比して、「女性不況（シーセッション（She-Cession））」と呼ばれることもある。

また、DV（配偶者暴力）や性暴力の増加、深刻化は、ロックダウンした各国で報告された。国連のアントニオ・グテーレス事務総長は、令和 2（2020）年 4 月 9 日に、新型コロナの感染拡大が既存の不平等を強め、社会的・政治的・経済的システムにおける女性・女兒のぜい弱性を露呈させ、新型コロナの影響を増幅させたと述べ、新型コロナの影響からの回復においては、女性・女兒を対応の中心に据えるよう、各国政府に対して要請し

¹ 本稿は発表当日の原稿に加筆修正を加えたものです。

た²。

日本では他にも女性の自殺者の増加がありますが、コロナ禍における女性の自殺者の増加は現行システムのゆがみが女性を直撃するものであることを示しています。その理由として、非正規で雇用されている女性が多く、コロナ禍で雇用機会を失い困窮化したことが指摘されていますが、それだけではなく、主に家庭内のケア仕事の増大による疲弊や、家庭内暴力や性暴力による絶望など、経済的理由に還元できない要因もあります。自分や子どもの将来を悲観しての自殺や無理心中は、東日本大震災の後にも見られましたが、もし、「自分たちは置き去りにされない」という、政治や社会に対する信頼や安心感があったならば、そして、せめて助けを求めることができる心理的・社会的環境があったならば、防げた自殺や無理心中もあったかもしれません。

社会全体に余裕がなくなるときに、特に女性にしわ寄せがゆくような社会的・政治的・経済的システムは変えなければなりません。この変革は、現行システムの関係者が全員で取り組まなければならないものです。そのなかで哲学に何ができるのかについて、これから見てゆきたいと思います。

2. 正義論とジェンダー

一口に哲学と言っても、他の人文社会科学系の学問分野がそうであるように非常に幅が広いため、ここでは私が専門としている現代正義論にフォーカスします。そのなかでも、ジェンダー平等をもたらす「社会的・政治的・経済的システム」を現代正義論は論じているのか、また論じることができるのであればどのようなものになるのか、を取り上げます。

現代正義論は、アメリカの哲学者ジョン・ロールズの『正義論』という著作を出発点としています。ロールズの『正義論』は今では政治哲学と呼ばれる分野を大きく規定していますが、その所要所は人文社会科学系の分野で広く研究されてきました。その要諦は、偶然性の現れそのものではなく、偶然性がもたらす不平等を、社会的・政治的・経済的システムが放置しておくことに不正があるとしたところにあります。そこでロールズが持ち出したのが、「無知のヴェール」と呼ばれる、思考実験における倫理的装置でした。これは、自分や社会に関する情報をいったん遮断することで、公正なシステムに関する推論を可能にします。近ごろ話題に登ることの多い親ガチャについて言えば、その結果がなんであれ、誰もがまっとうな暮らしを最後まで送ることができる社会が公正だと言えそうです。では、ジェンダーはガチャでしょうか。自分のジェンダーを選んで生まれてくる人はいないことから、私はそう言えるように思います。

3. 正義論からの排除

² https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r03/zentai/html/honpen/b1_s00_00.html

ロールズの時代には、ボーヴォワールによる研究がありましたし、第二派フェミニズムも始まっていました。家父長制や、いわゆる「公私二元論」が批判され、その構造を解体する必要性が認識され始めた時代です。くしくもロールズ正義論はすべての個人の自由と平等を目指すものであったのですから、自ずとジェンダー平等を唱えるものであるはずでした。

しかしながらロールズは当初、男女に基本的諸権利が平等に割り当てられていれば十分だとしていましたし、後年では基本的諸権利に加えて公正な機会均等も含めるようになったとはいえ、家族の存在を「無知のヴェール」によっていったん括弧に入れることはなく、また、男性を家長とする家庭内で女性が子育てをするという性別分業を示唆していました。ロールズは人々の正義感覚が育まれる場として家庭を重視しましたが、これでは家父長制のもとでジェンダー規範が再生産されることになってしまいます。

このようなロールズ正義論の問題点については、『正義・ジェンダー・家族』を著したスーザン・モラー・オーキンをはじめ、リベラル・フェミニストからも批判がなされました。後年のロールズは、家族の形態を多元的に捉えるようにはなりましたが、家族に特別な役割は持たせ続けました。例えばですが、『公正としての正義 再説』という著作では、「家族は基礎構造の一部であり、その理由は、ある世代から次世代へと、社会とその文化の整然とした生産と再生産を確立することが家族の不可欠な役割の一つであるということである」と述べています。

ここには二つの問題があるように思います。ひとつは、家族に対してこのような役割を与えることの正当性です。生産と再生産に寄与しない家族を認めないような思想は、リベラルとは言えないのではないのでしょうか。もうひとつは、ケア活動は家庭内で行われるとすることの正当性です。後年のロールズはもはや、男性が家庭の外で賃労働をし、女性が家庭内でケア活動をするという性別分業モデルを用いていませんが、誰かが家庭内でケア活動をするという想定は維持していましたし、母親と子どもをユニットとして捉えていましたので、結局のところ母親が子育てをするという前提に立っていたと思われます。ですので、エヴァ・フェダー・キティが『愛の労働』で提案しているケアの分配的正義や、エリザベス・ブレイクが『最小の結婚』で提案している多層的なケア関係を、ロールズがどう受け取るかは不明で、興味深いところです。

このようにしてみると、ロールズ正義論にはロールズの価値観、もっと言えばポジション・トークが入り込んでいるように思います。すべての人の自由と平等を目指すならば、ケア活動が特定のジェンダーに偏らないようにする仕組みを考えなければならないはずですが、ロールズはそうしませんでしたし、ロールズ正義論によって規定されてきた政治哲学者たちもそうしてこなかったのではないのでしょうか。

これに関連して、英語圏の戦後リベラリズムのインテレクチャル・ヒストリーを *In the Shadow of Justice* (『正義の影で』) という著作にまとめたカトリーナ・フォレストが、最近のインタビューで興味深いことを述べています。それによると、ロールズ以降のリベラルな政

治哲学者たちは、ショーケースの中のような閉ざされた集団的営みにおいて現実から離れたリベラリズムを作り上げてしまったと、つまり上手にまとめられた理論であっても外部からみると綻びがあるというのが現代正義論なのです。

ジェンダー平等の観点から言えば、そのような綻びの一つはジェンダーに関する語りの軽視、もっと言えば排除だろうと思います。理論のガラパゴス化は望ましいものではありません。理論を現実に対して開いておくことが重要で、そのためには正義論のいわば「民主化」が必要です。

4. 正義論の「民主化」へ向けて

正義論の「民主化」に役立つ哲学的議論として、ここでは4つご紹介します。

第一に、フェミニスト現象学があります。これは、現象学の知見を生かして、個々人が世界と取り結んでいる関係にジェンダーが根元的に関わっている様子を記述することです。例えば冒頭で言及した「生理の貧困」についての語りなどがそうですが、果たしてロールズがその正義論で「生理の貧困」を取り上げることはありえただろうかと想像すると、難しかっただろうと思われます。生理用品が入手できるかどうかは、生理がある人々のウェルビーイングにとって極めて重要なことです。

第二に、構造的不正義論があります。構造的不正義論は、誰も違法行為をしていないにもかかわらず不正な結果がもたらされる現実を説明し、また、そのような構造を是正するための責任の所在と果たし方について論じます。初期の頃にフェミニスト現象学をしていたアイリス・マリオン・ヤングも、『正義への責任』という著作にあるように、国内外の構造的不正義について論じています。ヤングによれば、不正な構造を変革する責任は、その構造にかかわる全員にあるとしましたが、この責任とは未来へ向けて何かしらのアクションをとることです。

個人的な話になりますが、私はヤングが来日したとき、ある懇親会でヤングにお会いしたことがあります。その時は立食スタイルでしたので、他の男性の参加者にビールを注いでいたのですが、ややあってヤングに腕を掴まれて部屋の片隅に連れて行かれて、「彼らにビールを注いではいけない。もっと期待するだろうから」と言われたことがありました。その時は、自分も男性にビールを注いでもらっているから構わないだろうと思っていたのですが、以来、他の人にビールを注ぐのをやめています。簡単なようで難しいことですが、こうした形でも未来に向けての責任を果たすことになればと思っています。

第三の哲学的議論は、ミランダ・フリッカーに代表される認識的不正義論です。認識的不正義には二種類あり、ひとつは証言的不正義と呼ばれるもので、聞き手が話し手にわずかな信用しか与えない場合に生じるものです。同じことを述べているのに、男性に比べて女性の発言が信用されない場合に生じているのはこれです。もうひとつは解釈的不正義と呼ばれるもので、話し手が自分の経験を語るうえで解釈的資源に欠けているために上手く伝えられず、不利にな

る場合に生じるものです。例えば「ハラスメント」という言葉ができる前の被害者は、解釈的不正義を被っていたと言えます。

第四に、ケイパビリティ・アプローチがあります。アマルティア・センやマーサ・ヌスバウムによって展開されていますが、これは、ウェルビーイングを達成しようとする個人の実質的自由に着目するものです。そのため、ケイパビリティ・アプローチを採用する研究やプロジェクトは、個々人にとって価値のある「できること」や「なれること」をみることになります。社会的な規範に照らしてではなく、個々人が理由を持って重んじていることに照らして、ウェルビーイングを評価し、支援することができるのです。ケイパビリティ・アプローチは、個人の行為主体性（agency）の成立を視野に入れているため、エンパワメントのプロジェクトでもあります。構造的な不正義や認識的不正義をただす力のある人々を育むことは、ジェンダー平等の促進に繋がるはずです。

ジェンダー平等を求めるということは、ジェンダーに関わりなく、すべての個人に等しい権利とそのためのケイパビリティの保障を求めることでもあります。基本的人権に照らして考えられた基本的ケイパビリティのリストとして、ヌスバウムのリストがありますが、誰もが人間らしく生きることのできる社会を考えていく上で、参考になると思います。

5. リベラルな正義論に何が言えるか

さて、ジェンダー平等に関して哲学に何が言えるのかを、これまで現代正義論の観点から見てきました。リベラルな政治哲学者たちは、特殊なショーケースのなかで研究を重ねてきましたが、その後の規範の語り手の多元化によって、そのショーケースには加速度的に穴が開けられています。

ならば、現代正義論に残る理念は何でしょうか。私は、諸個人の自由と平等だとみています。親ガチャがあるように、ジェンダーガチャがあります。特定のジェンダーであることは正でも不正でもないけれども、それによってもたらされる不平等は是正されなければならない。それを要求することができるのは諸個人の自由と平等という理念であり、これこそがリベラリズムの真骨頂だと思います。野崎綾子さんが『正義・家族・法の構造変換』で述べたように、「リベラル・フェミニズムの資源は尽きていない」のです。

諸個人を、ジェンダーにかかわらず、他者と等しい自由への権利をもつ人間として尊重すること、そして諸個人の基本的ケイパビリティを確実なものにすること。私は、ロールズが後年に深めた「財産所有のデモクラシー」という理念に、リベラル・フェミニズムの可能性があるのでないかと考えています。この理念は市場社会主義とも相性がよく、またジョン・スチュワート・ミルが説いた定常状態も視野に入れているため、近年ではロールズ正義論のマルクス主義的解釈や、ロールズ正義論の環境倫理への応用といった、新しい展開につながっています。

ここで特筆したいのは、ロールズが「財産所有のデモクラシー」の構想において、「住居や私有地」への権利を、平等であるべき基本的諸自由のひとつとしていることです。これは「居住（housing）の権利」と解釈することができるものですが、誰もが個人として、屋根があり、鍵がかかる住居に住み続ける権利を有していることは、「誰も置き去りにしない」社会の基本だと思われます。個々人に「居住の権利」が保障されるならば、人は住む場所を得るために婚姻関係を結ぶ必要が無くなります。家族をいったん個人単位に解体することを可能にするための理念が、ロールズ自身によって提示されていることに、リベラルな政治哲学者の端くれとして、注目してゆきたいと思います。

6. 女の子のための哲学

これまでみてきたように、規範の語り手は自分のポジションから語るため、ジェンダー平等を目指す営みには多様な語り手が必要です。ですが哲学は、他の多くの学問分野と同様に、男性による寡占状態が続いてきました。それは女性が哲学に向かないからとか、女性に哲学をする気がないからではなく、哲学を学ぶ機会がなかったり、そもそも哲学を選好しないように仕向けられていることがほとんどです。

そのなかで、*Philosophy for Girls*（『女の子のための哲学』）という本が2020年に刊行されました。著者たちは大学入学前の女の子たちに哲学をしてもらうことを期待していて、例えばアーシュラ・K・ル・グィンの『闇の左手』などの物語が紹介されています。日本ではどうでしょうか。ジェンダー平等について考えさせてくれる物語は、小野不由美さんの『十二国記』シリーズをはじめ、日本語で書かれたものにも数多くあります。こうした物語を小学校や中学校の国語の教材にすることも、ジェンダー平等を推進するように思います。哲学はロールズの『正義論』のような難解な書物の読解に限定されないということを強調することで、私の話を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。



GEHASS 公開シンポジウム
ジェンダー平等をいかに基礎づけるか
ー異分野間対話ー
2022年3月27日（日）

ジェンダー研究のアクチュアリティ

報告 2 : ジェンダー史学より
弓削尚子（早稲田大学）



歴史を書くことの変遷

18世紀の歴史叙述

Ex.) 「人類史」

野蛮、未開、半文明、文明という人類の歩みをとらえる
進歩史観において、女性やジェンダー、セクシュアリティ
は歴史叙述の対象。

- 女性の境遇や男性の権力のあり方はその民族
の文明度を示す。
- 男と女の関係は、「匿名の欲求解消」の関係から
社会契約的な結婚の結びつきへ。

世界の諸民族に目を向け、人類史としての「女
の歴史」も書かれた。



19世紀の歴史学

厳密な史料批判・読解による科学的客観的叙述。

「国家／国民の歴史」

- Nationの創造の装置としての歴史

- 担い手も対象も近代の公私二元論が反映

- 公的領域(＝男性領域): 政治・経済・軍事・学術
- 私的領域(＝女性領域・親密圏): 家族・ケア・

セクシュアリティなどは対象外

近代歴史学

◎女性史学は「新しい歴史学」の潮流に恩恵を受けてきたとともに、その一翼を担った。

・1970年代の第二派フェミニズム～

- ✓歴史学historyは男の物語his story
- ✓歴史に埋もれた女性をすくい取る女性史の叙述。
- ✓「歴史の対象は何か」「歴史家とは誰か」という問い。

ex.) 19世紀のアカデミズム史学の外で活躍した「女性史家」の発掘(B.G. Smith)

- ✓史料の読み直し、発掘、公文書/文献史料以外の広がり

・20世紀後半における歴史学内部の刷新

「アナール学派」、「新しい歴史学」

- ✓国家や制度含め、人間の活動全般への関心
- ✓事件よりも構造
- ✓「下からの」視点
- ✓客観性の追求より多義的解釈の提示
- ✓多様な史料と学際性



・1990年代 ジェンダー史の登場

「歴史学は男女両性の社会的組織化における変化の記録というばかりでなく、性差についての知の産出に参与するものとしてもきわめて重要な存在である。私は、歴史学がどのように過去を表現するかが現在のジェンダーを作り上げる手助けをしていると考えている。」(J.W.スコット)

Cf.) 言語論的転回

✓「ジェンダー平等をいかに基礎づけるか」の本シンプの問いに対する回答

歴史家としての責務。ジェンダー不平等がどのように歴史的に構築されてきたのかを明らかにする。

→ Ex.①歴史教育における一例

✓近代歴史学の背景にある性別二元論・異性愛主義に基づくジェンダー規範の歴史的構築性を明らかにするとともに、その脱構築をはかる。

✓ジェンダー史という新たな分野の付加というより、あらゆる歴史がジェンダー史でなければならない。

・2000年代 男性史の隆盛

✓「ジェンダー化された国民」概念

Cf.) 2000年にオスロで開催された国際歴史家会議

公的領域をあてがわれた男性性への問い

→家庭性の奪取、命を育て慈しむ機会の奪取。「私的領域に男性の居場所はあるのか」

→ケアする女性の不可視性

「公人としての男性は、妻や娘や姉妹や女中によってつねに世話をされ、奉仕を受ける存在だった。

…一見すると自律的な個人は、ほとんどつねに家族や親類に取り囲まれており、彼らのおかげで個人としての活動
をすることができたのである」(L.ダヴィドフ/C.ホール)

「武装する国民」「軍服を着る市民」における男性性への問い

→徴兵制が創出する「軍事化された男らしさ」。「軍隊は男らしさの学校」。

帝国の拡張を担う男性性への問い

→植民地支配の男らしさ。「男なら世界に目を向けよ、そして良き植民者たれ。」

✓「模範的男性性」のカウンタータイプ(モッセ)、「従属的男らしさ」(コンネル)への注目

➡ クィア・ヒストリー

歴史学を含む近代の諸科学はこの
ような男性的価値観の産物
→Ex.②近代歴史学の男性性を問う

Ex.① 日本の世界史教育:18世紀末から19世紀初頭において活躍した女性是谁?

マリ＝アントワネット:1755-93 オーストリア大公マリア・テレジアの娘、ルイ十六世の妃。浪費癖などで国民の反感を買い、スキャンダルも多かった。革命期には反革命派の中心とされ、恐怖政治下の1793年10月に処刑された。

ジョゼフィーヌ:1763-1814 ナポレオンの最初の妻・皇后。1796年ナポレオンと結婚したが、跡継ぎの男児ができなかったため1809年に離婚された。こののちナポレオンはオーストリア皇女マリ＝ルイズと再婚する。

(『世界史用語集』全国歴史教育研究協議会編、山川出版社 2017)



2018年版にようやくオランプ・ド・グージュ(「フェミニズムの先駆者」)の項目が追加

Ex.②近代歴史学の男性性を問う

・テオドーア・モムゼン(1817-1903)、ハインリヒ・フォン・トライチュケ(1834-1896)、フリードリヒ・マイネッケ(1862-1954)という近代歴史学を牽引した歴史家に共通しているものは？

トライチュケ:ベルリン大学教授、『史学雑誌』(1895-)の編集者、
国史編纂官といった役職のランケの後任者。
代表作『19世紀ドイツ史』(全5巻1874-94)。
「ドイツにおける世論のみならず、歴史家の歴史像形成
に対してもトライチュケが及ぼした偉大な影響に関しては、
反駁の余地は全くない。」(イッガース)
愛国主義、戦闘的な帝国主義的世界政策の推進者。

- ✓大学は軍隊に次ぐ「男らしさの学校」
男としての名誉にかかわる決闘文化(U.フレーフェルト)
- ✓近代歴史学の「男性的Disziplin」。「全き男性」としての歴史家(F.Schnicke)

・「全き男性」としての歴史家が関心を払ってこなかった、「近代的男らしさ」(＝「軍事化された男らしさ」)
に背を向けた男たち

ナチス・ドイツの脱走兵

「もはや兵士でも男でもない」という非難に対して、所属部隊による戦争犯罪や人道に対する悪事に耐えられず、「自分こそが本来の理想的な、勇気ある兵士」と弁明。
→「英雄」とは誰か

イシガオサム(1910-94)

「思いもかけず心にもなく平和な生活からたち切られ、良心にもとる行為をすべく強制される恐ろしい時代だ。
——『何をいまさら言っているのだ。男という男はその運命をたえているのではないか。一身の安危を忘れて公のために
つくすということは平生は美德としてたたえられる。それが今の世には大多数の男によって為されているのだ。』」
→WRIにおける国家を超えた兵役拒否者のつながり

結びにかえて

- ✓ジェンダー史学とは、近代歴史学への批判的実践であるとともに、近代に確立した性別二元論・異性愛主義に基づくジェンダー秩序の脱構築を担う。

男性＝戦争・加害、女性＝平和・被害の歴史的構築性は、アクチュアルな問題として歴史家が向き合う課題。

- ✓18世紀の西洋を頂点とする進歩史観に基づく人類史とは異なる、グローバル社会に生きる「地球市民」の歴史（グローバル・ヒストリー）の模索。

ジェンダー、セクシュアリティ、民族、「人種」、宗教、階級など、多様な歴史主体を前提

【参考文献】

Magnus Koch, Männlichkeit und Verweigerung. Deserteure der Wehrmacht aus geschlechtergeschichtlicher Perspektive, in: A. Dietrich / L. Heise (Hg.), *Männlichkeitskonstruktionen im Nationalsozialismus*, Frankfurt a. M. 2013.

Falko Schnicke, *Die männliche Disziplin. Zur Vergeschlechtlichung der deutschen Geschichtswissenschaft 1780–1900*, Göttingen 2015.

Bonnie G. Smith, *The Gender of History, Men, Women, and Historical Practice*, Harvard University Press 1998.

イシガオサム『神の平和—兵役拒否をこえて』日本図書センター 1992(1971).

ゲオルク・イッガース「ハインリヒ・フォン・トライチュケ」H.-U.ヴェーラー編『ドイツの歴史家』ドイツ現代史研究会訳 第2巻 1983.

アラン・コルバンほか監修／鷺見洋一監訳『男らしさの歴史』全3巻 藤原書店 2016-17.

ジョーン・W・スコット『ジェンダーと歴史学』荻野美穂訳 平凡社 2004(1992).

レオノーア・ダヴィドフ／キャサリン・ホール『家族の命運—— イングランド中産階級の男と女1780～1850』

山口みどり／梅垣千尋／長谷川貴彦訳 名古屋大学出版会 2019.

ウーテ・フレーフェルト『歴史の中の感情——失われた名誉／創られた共感』櫻井文子訳 東京外国語大学出版会 2018.

ジョージ・L・モッセ『男のイメージ——男性性の創造と近代社会』細谷実ほか訳 作品社 2005.

弓削尚子『はじめての西洋ジェンダー史——家族史からグローバル・ヒストリーまで』山川出版社 2021.

弓削尚子「世界史における男性史的アプローチ——「軍事化された男らしさ」をめぐる」『アジア遊学』勉誠書店 2015(186).

ソニア・O・ローズ『ジェンダー史とは何か』長谷川貴彦／兼子歩訳 法政大学出版局 2017.

人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）公開シンポジウム
ジェンダー平等をいかに基礎づけるか ―異分野間対話― **2022/03/27**

フェミニスト経済学とは何か

批判理論としてのジェンダー研究―

お茶の水女子大学名誉教授

足立真理子

I : 経済学に「ジェンダー」を持ち込む

- 1970年代以降の第二派フェミニズム運動の隆盛
- 「家事労働論争」の展開
 - 女性が家庭で行っている家事とは何か
 - 家事は労働か？労働ではないのか？
 - 家事が労働ならば、どのような労働なのか？
 - それは、市場経済とどのような関係にあるのか

→ 現在において、これらの論争はほぼ決着をみているといえる。
1995年：スーザン・ヒメルヴァイトによる労働概念の拡張」
家事労働、不払い労働、ケアワーク、再生産労働

- 資本主義経済社会の構造に関する諸理論の登場
- 家父長制概念
 - 資本主義と家父長制の関係

経済社会構造の再生産に対するフェミニスト批判
不可視化されていたものを可視化する、新たな知としての
ジェンダー分析

1990年代初頭 国際フェミニスト経済学会 (IAFFE)成立

現在では、主流派経済学批判の経済学の潮流として広く承認

2022年、第30回スイス・ジュネーブにて年次総会開催が予定

(70以上の分科会 リアル・バーチャル併用の2000名以上の参加規模)

アジア諸国において、フェミニスト経済学はたいへん隆盛をみせている

韓国、台湾、タイ、シンガポール、インドネシア、フィリピン、中国

オーストラリア、ニュージーランド、インド、バングラデシュ

主流派経済学批判を主とする、経済学および関連社会科学研究の潮流としての位置を確立

当初から学際的性格を持つ (政治学、法律学、社会学、開発、地理学)

日本における学会の設立

2008年 日本フェミニスト経済学会 (JAFFE)設立

当時マスコミ等から、ジェンダー経済学会ではないのか?と質問された

理由1 フェミニスト経済学は経済学のひとつの学問潮流の名称

(ex. ケインズ経済学など)

理由2 日本フェミニスト経済学会は、当初より国際フェミニスト経済学会日本ブランチとして設立 (常時、国際学会として活動)

I A F F E H P



- <http://www.feministeconomics.org/>
- **Feminist Economics**
- *Feminist Economics* is a peer-reviewed journal that provides an open forum for dialogue and debate about feminist economic perspectives. By opening new areas of economic inquiry, welcoming diverse voices, and encouraging critical exchanges, the journal enlarges and enriches economic discourse. The goal of *Feminist Economics* is not just to develop more illuminating theories, but to improve the conditions of living for all children, women, and men.
- *Feminist Economics* has become, with remarkable speed, a leading journal in economics, vastly enriching the understanding of important economic issues.
- **Amartya Sen**
Nobel Prize for Economics 1998, Harvard University, USA

IAFFE Listservs

[IAFFE on Twitter](#)

[IAFFE on Spotify](#)

Resources

- [Feminist Economics 101](#)
- [Online Events](#)
- [Young Scholars](#)
- [Book Celebrations](#)
- [Publishing in Feminist Economics](#)
- [Course Syllabus Catalog](#)
- [IAFFE News](#)

Conferences

- [ASSA/AEA Annual Meeting](#)
- [Pre-Conference Workshop](#)
- [Past IAFFE Annual Conferences](#)
- [Hosting the IAFFE Annual Conference](#)

Awards & Prizes

- [Agarwal Book Prize](#)
- [Jean Shackelford Award](#)
- [Rhonda Williams Prize](#)

Get Involved

- [Volunteer for Committees](#)
- [Facebook, Blog and Twitter](#)

About IAFFE

- [Mission Statement](#)
- [Board of Directors](#)
- [History](#)
- [Purposes & Activities](#)
- [IAFFE Brochure](#)
- [¿Qué es IAFFE?](#)
- [Annual Report](#)

Contacts

- [IAFFE Office](#)
- [Book Series Editor](#)
- [QuestionPro 2020](#)

Welcome to IAFFE



SAVE THE DATE

30th iaffe annual conference

JUNE 29 - JULY 1, 2022
GENEVA, SWITZERLAND

Transforming Global Governance for Social Justice: Feminist Economics and the Fight for Human Rights



IAFFE@ASSA 2023 | January 6-8, 2023 | New Orleans, LA USA
CLICK HERE ... <http://www.iaffe.org/assa-annual-meetings/2023-assa-meeting/>

IAFFE Statement in Solidarity with #BlackLivesMatter

IAFFE Statement in Solidarity with Black Lives Matter
CLICK HERE ... <http://www.iaffe.org/pages/resources/iaffe-news/statement-solidarity-blm/>



Statement on Universal Social Provisioning
IAFFE, the largest academic association for feminist economists, champions universal ...

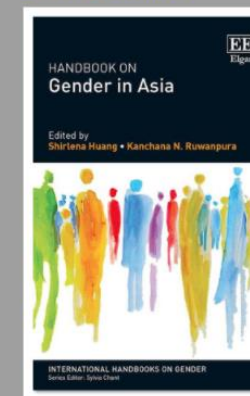


Coronavirus and the COVID-19 Pandemic
CLICK HERE ... <http://www.iaffe.org/covid19-pandemic/>



IAFFE Statement re Toxic Environment for Women in Economics in the U.S.
The findings of talented undergraduate economics student Alice Wu's analysis ...

Book Spotlight



Handbook on Gender in Asia
Shirlena Huang & Kanchana N. Ruwanpura | The Handbook on ...
[More >>](#)

Your Support Makes a Difference

IAFFE relies on your contribution to provide needed support for IAFFE's work in empowering and improving well-being of women and other underrepresented groups around the world. Through all of our efforts, IAFFE can continue to provide programming in support of feminist economics. Please consider [joining IAFFE](#) or making a [donation](#).

QuestionPro

QuestionPro provides unparalleled insights and just launched enterprise features including Communities, Customer Experience, Workforce and Mobile.

Announcements

[Cecilia Conrad to receive NEA's](#)

学会誌「Feminist Economics」発行

- 1995年から

D. Strassmann 創刊号において表明

- フェミニズム独自の思想的・実践的課題と理論的概念を、経済学のうちにもちこみ、経済学の領域の問題として再考することをおして、従来の経済学の体系と方法を問いなおし、経済学のフェミニズムによる再概念化を試みる



Feminist Economics 誌

ISSN 2432-2296
経済社会とジェンダー
日本フェミニスト経済学会誌 第1巻
2016.10

家事労働を問い直す
— 新自由主義と「女性活躍」の中で —

巻頭言	竹信三恵子 (和光大学)	2
特集論文		
「価値ある仕事」としての家事 — オランダ社会における専業主婦の主流化と周縁化をめぐって —	中谷文美 (岡山大学)	3
女性の有償労働者化と男性の育児参加 — 新自由主義経済下でのリスクマネジメントとして —	海妻径子 (岩手大学)	17
経世日本における家事労働の位置を探る — 企業社会・雇用労働との関連で —	木本喜美子 (一橋大学)	31
論文		
パートナーのいる若年女性の隠れた貧困と生活の質	中原朝子 (神戸大学) 伊田久美子 (大阪府立大学) 山田和代 (滋賀大学) 熊安貴美江 (大阪府立大学)	47
イギリスにおけるビジネス・プロセス・アウトソーシング (BPO) の成長とジェンダー — コールセンターで働く女性たちの労働とライフコースを中心に —	堀芳枝 (恵泉女学園大学)	63
親の就業と子どもの教育は両立できるか — 「教育する家族」の選択 —	小野ルチャ (同志社大学大学院博士課程後期)	83
企業における雇用量拡大と「女性活躍」経済対策の検討 — 企業・韓国企業との比較 —	石塚浩美 (産能短期大学 / 産能能率大学)	99
14年度活動記録		115
15年度活動記録		118

日本フェミニスト経済学会
Japan Association For Feminist Economics

日本フェミニスト経済学誌
The Japan Association for
Feminist Economics
JAFFE

「経済社会とジェンダー」
創刊号 2016年

<http://jaffe.fem.jp/>

フェミニスト経済学の生成過程

- フェミニスト経済学の生成過程
- 1980年代後半 第二派フェミニズム運動の主張を受け生成
- 女性抑圧・差別・周辺化などの女性のおかれた状態を、
社会経済的基盤から分析するフェミニズムの「後継」として誕生
- 経済学内部から方法的・分析的・歴史的事象として理論的把握をめざす
従来の経済学諸派からフェミニズムの主張およびジェンダー分析の必要性を
認識し、新たな学際的知として生成
ケインズ派、ポスト・ケインズ派、新制度学派・旧制度学派、マルクス派、
ラディカルズ、歴史学派、政治経済学 レギュレーション学派など
- 第2派フェミニズムの主張である、市場経済社会におけるジェンダーの構
造的差別の物質的基盤と要因の解明

★現代経済社会における実質的ジェンダー不平等の是正に資する経済社会的
問題の解決を目指す

2. フェミニスト経済学の展開

Feminist Economics

経済学体系批判としてのジェンダー分析

- 80年代 :
フェミニズム運動と理論的な疑問に対する学際的な探求
- 90年代初頭
フェミニズムの問いを、経済内部の問題として受け止め、それが、従来の経済学にとって解決不可能、あるいは不可視化されていて問題そのものが把握できないのであれば、むしろ、従来の経済学の体系的批判を行う
- 経済学の体系的批判としてのフェミニスト経済学の誕生
- 従来の経済学の脱構築をめざして
- ex 合理的経済人批判 方法的個人主義批判
- 理論内在的には、不可視の利他的存在の必然性
- ケアする／ケアされる 依存と非自立
- 研究方法： 学問分野の領域横断性・学際性 ⇔ 単一の学問分野での完結
- ex 「アジアにおける植民地的近代とモダンガール」
歴史学、政治学、社会学、経済学、法学、人文学の学際的ジェンダー分析

フェミニスト経済学の認識論的転回

- フェミニスト経済学は、第2派フェミニズムのジェンダー不平等の改革という思想を受けて成立
- ⇒近代の経済学の学問的成立と摩擦
- 近代の経済学におけるイデオロギーと科学の峻別
- 「世界を客観的に眺望する視点」の無前提性 A.Sen: positional objectivity

足立：

- フェミニスト経済学は成立当初から世界内存在であることの確認から出発（立場性） 立場依存的客観性
- =ポスト近代の思想（Nelson、Hewitson）
- フェミニズムス：複数性の担保
事象に対する複数の見方の承認⇒
対話による差異の承認が認識を深化
非直線的 状況的主体
→交差性
抑圧や差別は単独の要因によって規定されるのではなく、
その内部における差異の不可視化を可視化させることが
重要

フェミニスト経済学の4つのレベル (足立)

1 ミクロレベル：

合理的経済人批判、方法的個人主義批判 支配的男性性批判（分離され合理的な強い個人）
個人間効用の比較不可能性批判、嗜好の不変性批判 競争概念の基礎
非市場労働としてのアンペイド・ワーク
ケア労働・再生産労働論、感情労働論など

2. メゾレ・ベル

与件されるかあるいは選択可能な集団形成の経路依存性、
世帯をはじめとする集団間・集団内部の協調と対立関係、
ex.補助金の世帯単位配給による政策漏洩
交渉モデル、脅迫点モデルなど
企業組織内、金融取引のミクロ権力関係

3. マクロ・レベル

財政・税制・金融・社会保障・労働市場などのマクロ経済分析のジェンダー化、
ワーク・ライフ・（アン）バランス、福祉レジーム
ジェンダー統計

4. グローバル・レベル

多国籍企業の国際移転・移転価格操作、技術移転と生産過程の分散・結合、
海外直接投資と現地労働力充当様式、
労働力のジェンダー化された諸相：
労働力の女性化 雇用労働力の変容 ギグエコノミー化
再生産労働力の国際移動(グローバル・ケア・チェーン) など

フェミニスト経済学の射程 社会的プロヴィジョニングを追求

- プロヴィジョニング:provisioning：備給、提供、調達
- 社会的再生産の備給・調達・循環全体を射程とする
- 市場経済のみではなく非市場経済を含む



トータルな社会経済構造の、人間の再生産を含む通時的再生産がいかにして成り立っているのか

→この視点から見れば、ジェンダー分析は、中心軸におかれる

市場経済／非市場経済社会の全過程を射程

再分配、互酬、贈与の経済をも包含

(人間の再生産視点からの経済)

社会的プロヴィジョニングの経済学

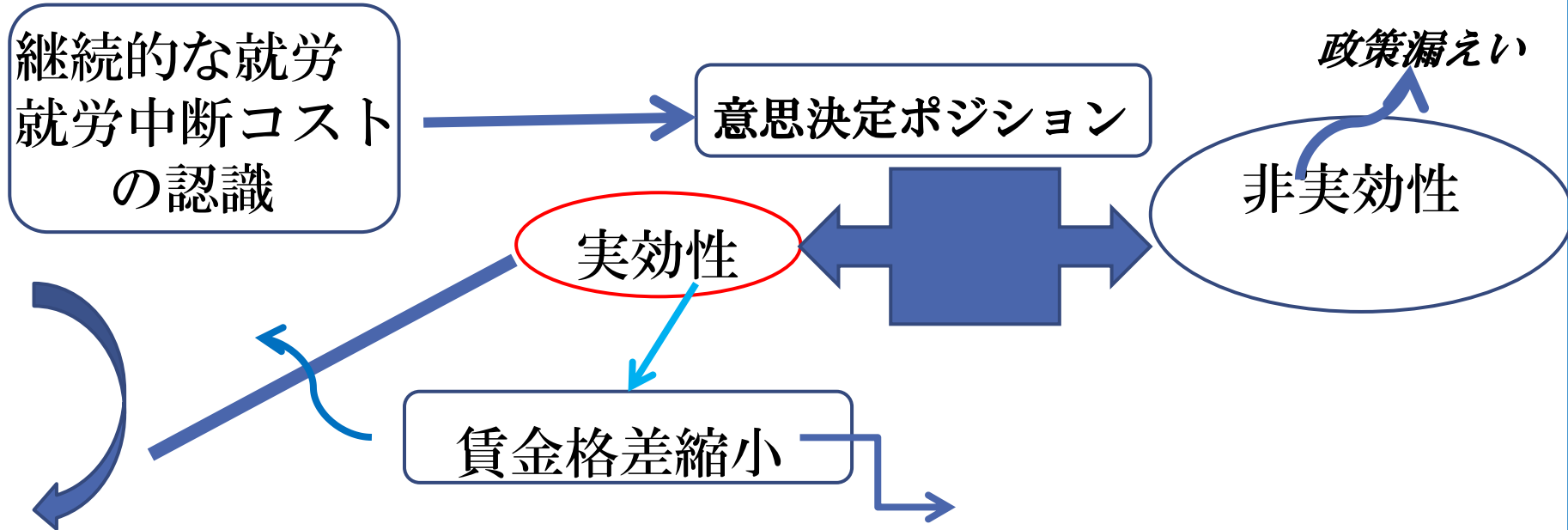
フェミニスト経済学によるジェンダー分析と政策

A. ジェンダー間賃金格差： ⇒賃金格差縮小を目的

B. 意思決定ポジション：実効性の有無

C. 就労中断の機会費用

の3要因の相互依存性 3者の関係は分断＝政策介入の必要



労働分配率の低下傾向
生存のための所得確保の必要
女性の不払い労働増大

フェミニスト経済学の活動目的

- フェミニストの視点を持つ世界中の経済学者や他の人々の間の対話と資源共有を促進する
- 経済問題に関するフェミニストの調査研究の推進
- 経済問題に関するフェミニストの視点について、経済学者、政策立案者、一般市民の連携と教育普及活動を行う
- フェミニストの視点から、経済学理論の根底に横たわる構造への価値評価を促進すること
- 経済界における女性、特に代表を送ることが困難なグループ出身の女性のための機会の拡大を支援すること
- 研究者、活動家、政策立案者間の交流を促進し、学問と政策を改善する
- 経済教育にフェミニストの視点を含めることを奨励する

現在のパンデミックの状況と影響に対するフェミニスト経済学の対応

社会正義のためのグローバルガバナンスの変革: フェミニスト経済学と人権のための政策アジェンダの設定

1. 包括的な回復のための国際協力の必要性:
現在のパンデミックは、パンデミックの影響を緩和し、包括的な回復を生み出すための国際協力の必要性に注意を喚起させた。
2. 既存のジェンダー・人種・カーストなどの不平等の悪化:
COVID-19が地域、国、世界経済に及ぼす、広範囲な影響はまだ完全には把握されていないが、パンデミックは、既存のジェンダー、人種、カースト、その他の不平等を明らかに悪化させた。
3. 家庭内暴力のケースが世界的に急増
4. 女性のケアと家事労働の負担が有償・無償を問わず指数関数的に増加
日常生活の継続が困難に。
5. パンデミックは、経済活動、資源、人命の間の厳しいトレードオフを直面させた
6. 経済決定の規範的基盤（価値認識を含む）を、利潤追求を第一義とする市場経済ではなく、市場の外部における調達を評価し、再検討することが不可欠。
7. 人権の枠組みによる経済社会政策評価のための倫理的レンズの提供
人権枠組みは、国際的な環境における何十年もの公的審議と推論を通じて開発された経済社会政策を評価するための1つの倫理的レンズを提供
8. 国際経済ガバナンス機関を、国家内および国家間の包摂と公平性を確保する戦略に振り向ける必要性
9. 人権の優位性、包括的で持続可能な経済を中核とする世界経済を提唱する緊急性

最後に：

COVID-19パンデミックの世界的な影響は、フェミニスト経済学者が長い間調査してきた問題領域と深く関連している。

したがって、これまでの知見により、現行の危機自体をより深く理解しうる

フェミニストの経済分析は、労働・仕事、社会的福祉、金融、持続可能性、全体的な幸福などの問題を含むマクロ経済政策の、相互に関連するジェンダーダイナミクスを強調し、より公正でジェンダーに敏感な、COVID-19の回復に貢献しうるものである。

- ご清聴ありがとうございました。

人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会(GEAHSS)公開シンポジウム

ジェンダー平等をいかに基礎づけるか-異分野間対話-

パネルディスカッション「ジェンダー研究のアクチュアリティ」

心理学より

2022.3.27

小林 敦子

川越市男女共同参画審議会委員・株式会社EFIC

博士（総合社会文化）

atsukokobayashi930@gmail.com

心理学におけるジェンダー研究とは

性差研究や性役割研究をはじめ、男女のあり方に関する研究全般がジェンダー研究と総称されている（鈴木・柏木,2006）。

- 1 第1期 ……性差中心
- 2 第2期 ……性役割中心
- 3 第3期 ……文化中心
- 4 第4期 ……ジェンダー中心

日本の心理学研究で「ジェンダー」はどのように検討されているか
Jstageで「ジェンダー」に接続する語を調べてみた 2022.1.18

「ジェンダー」

差・差異

ステレオタイプ

観点

パーソナリティ

アイデンティティ

態度

自尊心

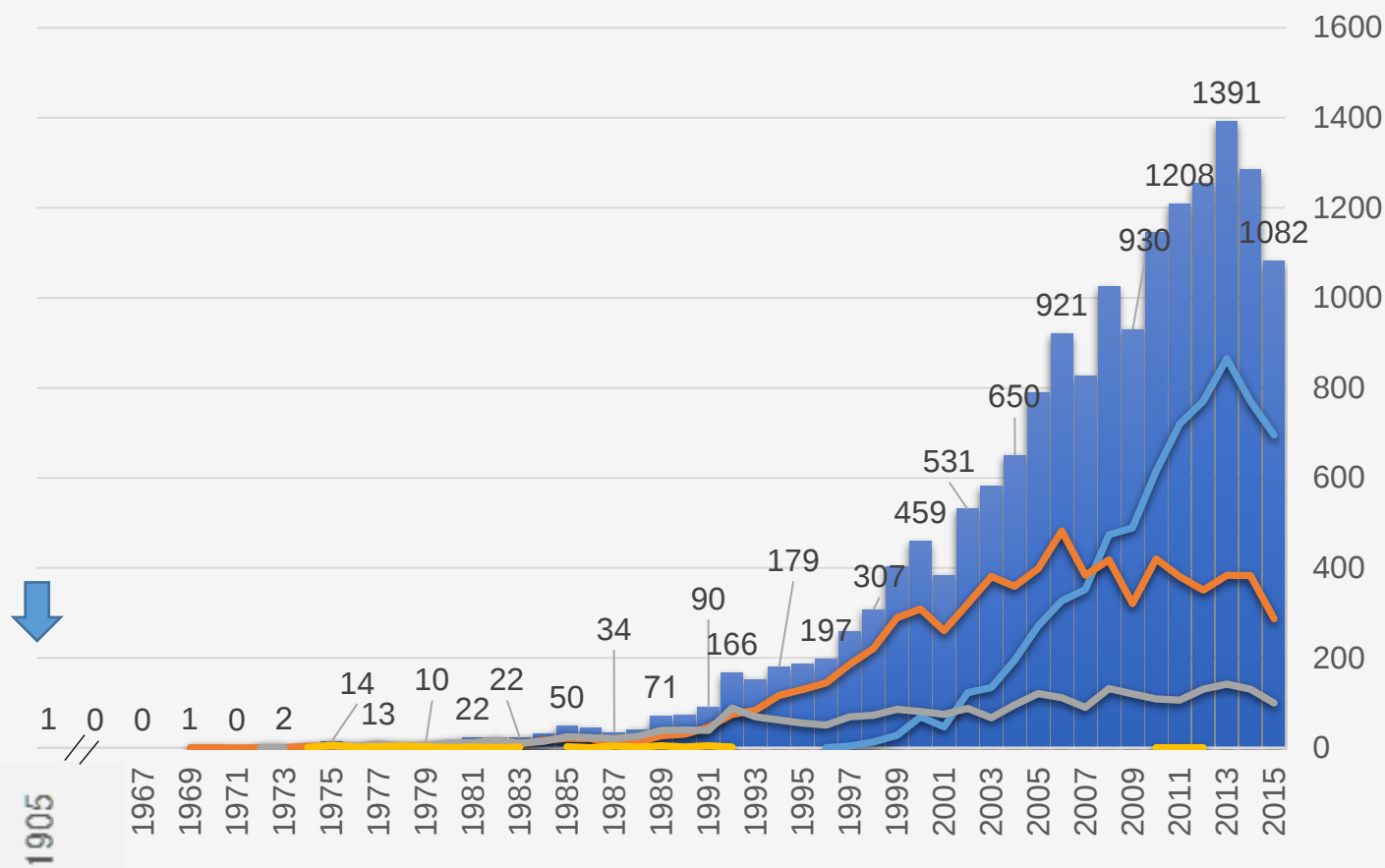
ハラスメント

環境

その他

→1994年～2021年の239件がヒット。そのうち心理学研究ではないものを除いたところ、73件となった

女性への暴力に関する論文件数の推移 (小林,2016)



IPV: intimate partner violence; FV: family violence; BV: battered wives

■ 合計 ● IPV ● DV ● FV ● BW

論文数の推移(ProQuestによる文献検索)

全体の傾向として

2007,8年を境に、DV（ドメスティック・バイオレンス）論文よりもIPV（親密な間柄の暴力）論文が優勢

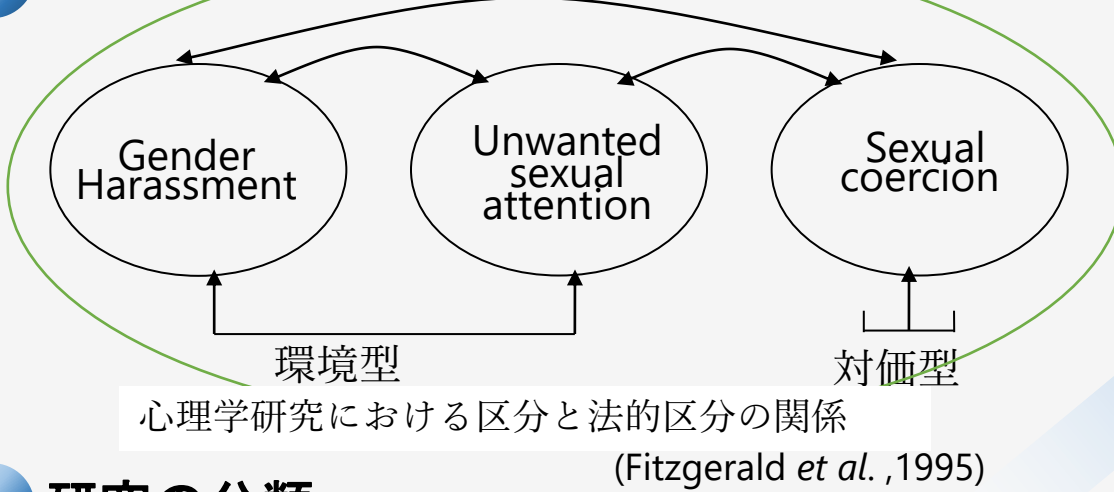
日本の心理学研究の傾向として

学生を対象としたデートDVやIPVに関する研究が増加

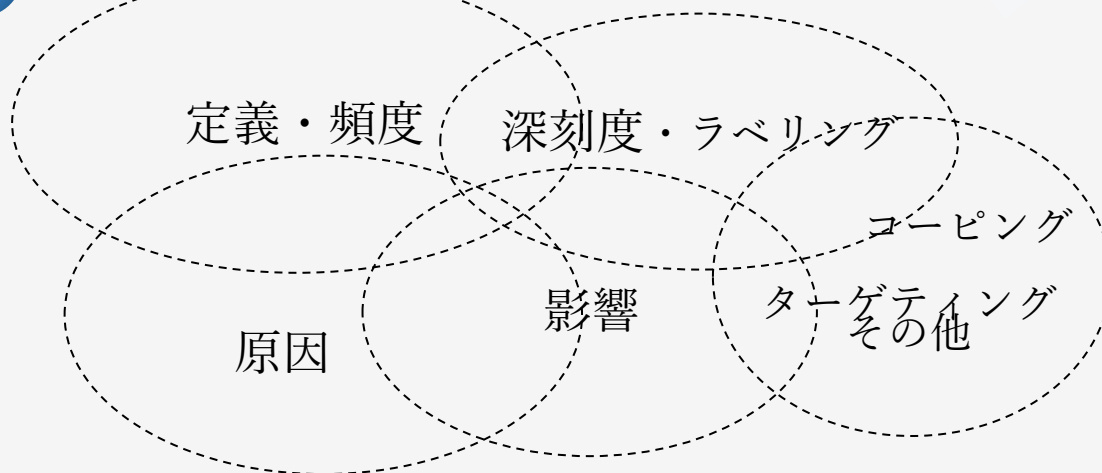
人口構成をベースにした一般的な成人を対象とした研究は圧倒的に不足している

職場の性差別的行為：セクシュアル・ハラスメントとジェンダー・ハラスメント

セクシュアル・ハラスメントの区分

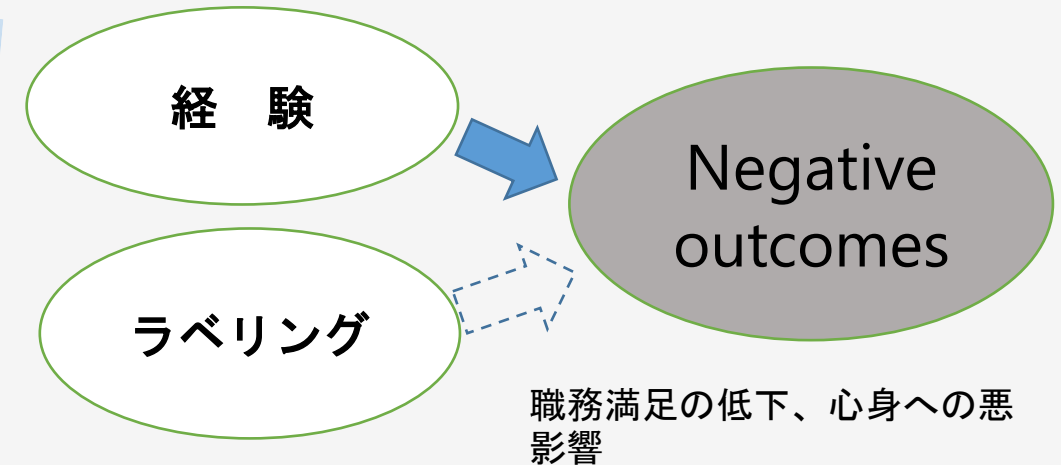


研究の分類



ハラスメントの悪影響は気の持ちようなのか？

(Magley, Hulin, Fitzgerald, & DeNardo, 1999; Munson, Miner, & Hulin, 2001)



ラベリング効果なし

受けた行為をセクシュアル・ハラスメントと思ったかどうかは関係なく様々な悪影響が及ぼされる

人はなぜ差別するのか？ 什么时候に差別が助長されるのか？

人は脅威に晒されると、自分と違う集団の人たちへの否定的な評価が生じやすくなる (e.g., Spencer, Fein, Wolfe, Fong, & Dunn, 1998)

自己価値への脅威にさらされた男性は、女性に対する自動的な偏見が生じる(石井・沼崎, 2011; 2012)。



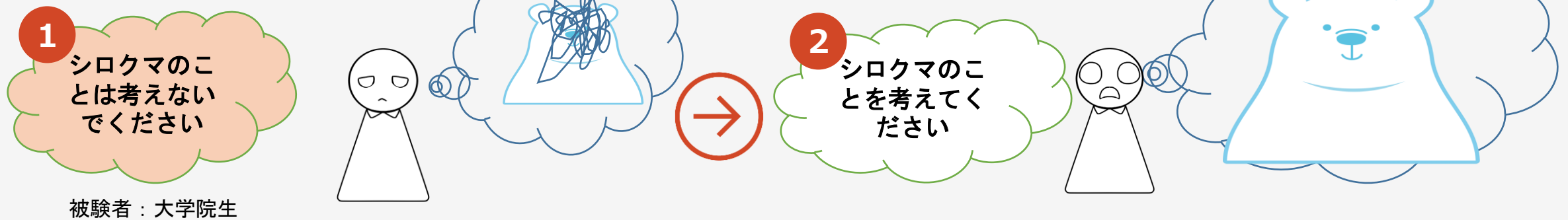
災害時にはステレオタイプや偏見が強くなる可能性が！



「女性 = 感情的」の決めつけはやめましょう！と言ったらどうなるか？

ステレオタイプ抑制の逆説的効果

「皮肉過程理論」：思考を抑制すると、かえって抑制された思考が浮かびやすくなる(e.g., Wegner, Schneider, Carter, & White, 1987)



→ステレタイプを抑制されると、その後に**却ってステレオタイプの思考が浮かびやすい**

シロクマの代わりに代替思考として「赤いフォルクスワーゲン」思い浮かべると逆説的効果は起こりにくかった



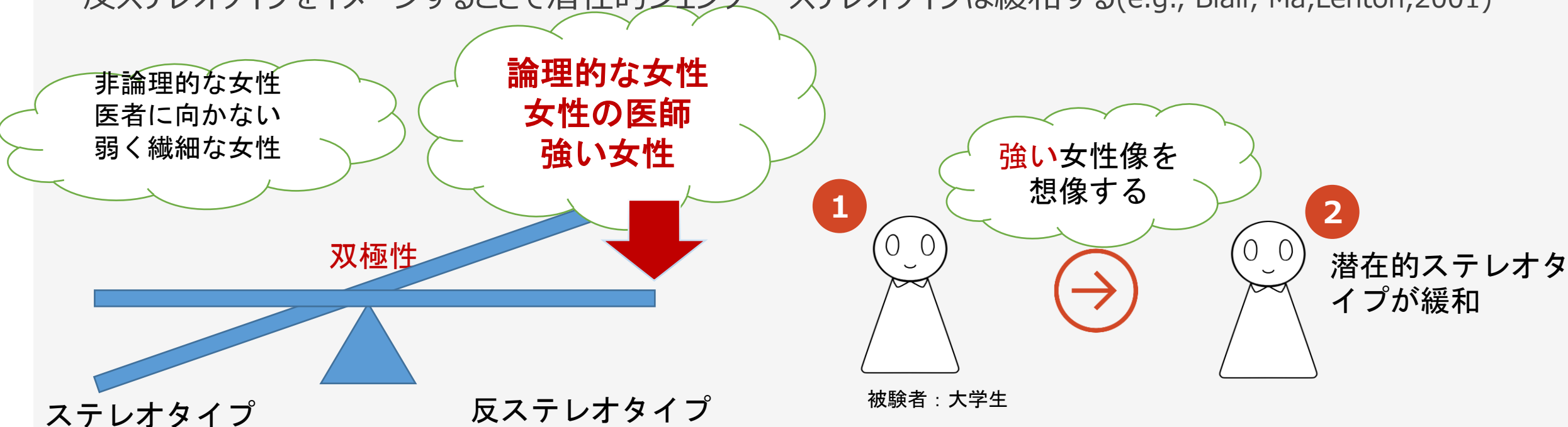
認知的複雑性が高い人は、非ステレオタイプ次元の特性を代替思考として利用しやすい

ステレオタイプを抑制の逆説的効果は、認知的複雑性の高い個人では起こりにくい

(山本・岡, 2016)

「論理的な女性」「強い女性」をイメージしたらどうなるか？

反ステレオタイプをイメージすることで潜在的ジェンダー・ステレオタイプは緩和する(e.g., Blair, Ma, Lenton, 2001)



世の中にステレオタイプの事象が多くある（それだからステレオタイプとなる）。

日本の就業者は、日々女性へのステレオタイプや格差に晒されている。社会人への一時的な介入効果は期待できるのだろうか→**社会人への具体的なアプローチの必要性**

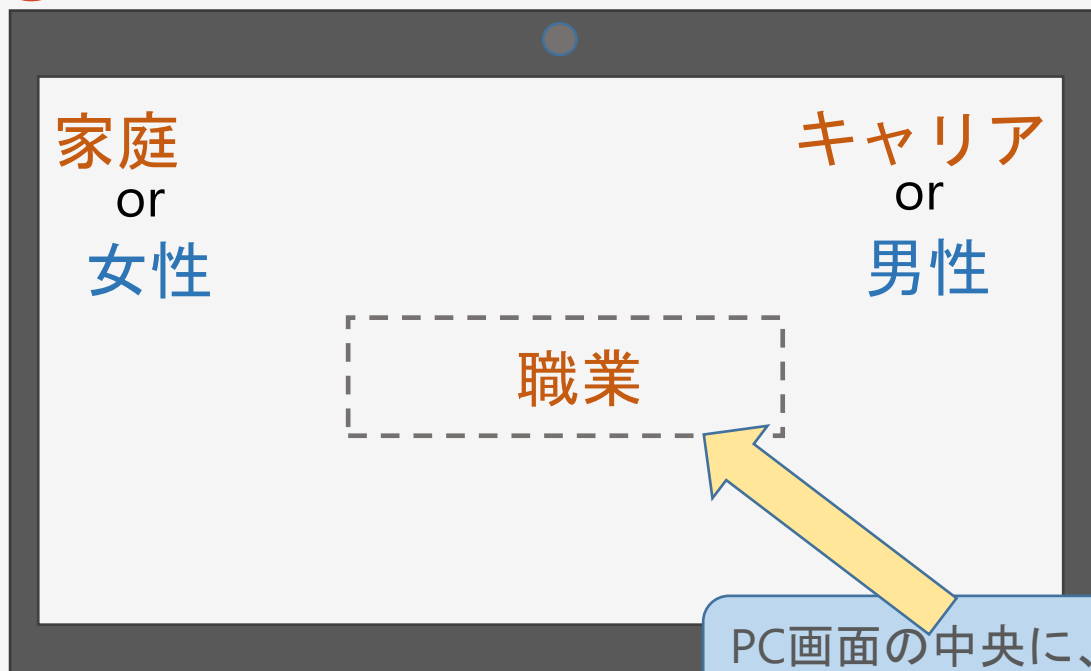
潜在的ステレオタイプを測定する

男女とキャリア・家庭に関するステレオタイプの測定の例

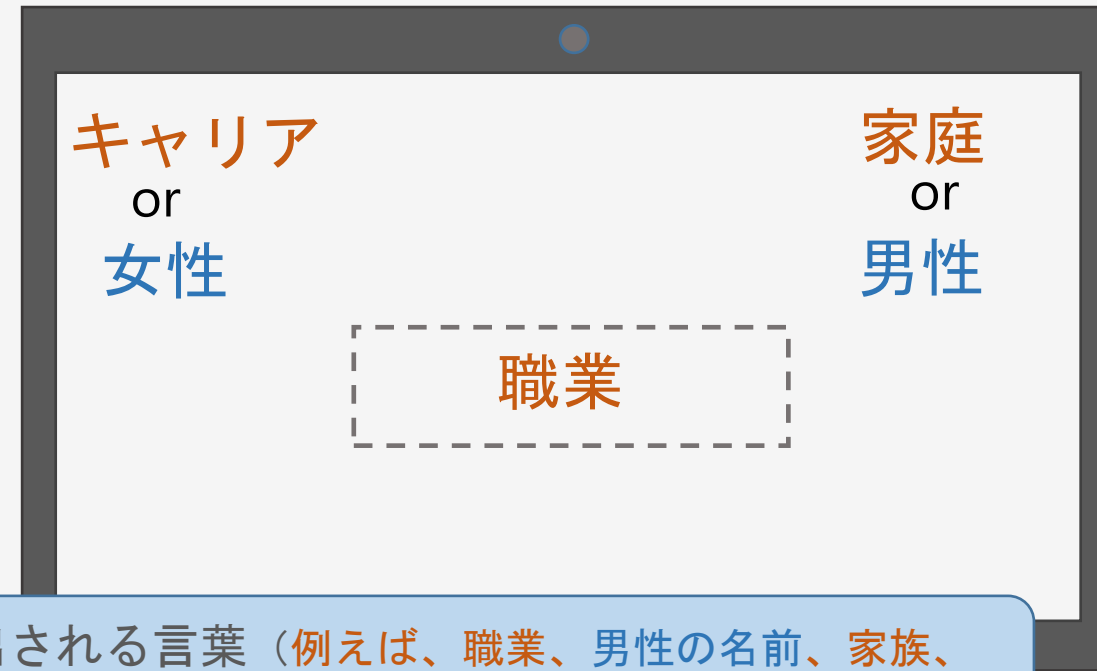
Implicit Association Test (IAT) : 潜在的連合テスト(Greenwald, McGhee, & Schwartz, 1998)

潜在的ステレオタイプは、ステレオタイプ一致ブロックと不一致ブロックの作業時間の差によって算出される

1 ステレオタイプ一致ブロック



2 ステレオタイプ不一致ブロック



PC画面の中央に、映し出される言葉（例えば、職業、男性の名前、家族、親戚、女性の名前、職場...）を4つのカテゴリーのいずれかに分類する

左なら“e”

右なら“i”

筆記で回答できる紙筆版IATもあります(e.g., 潮村, 2015)

女性への差別的行為(ジェンダー・ハラスメント)防止への心理学の応用と実践

(小林・田中,2012;2013)



一般的な企業研修

被験者：就業者

理屈で理解を促す

そもそも「**ジェンダー**」を冠する研修は**実施が比較的困難**であり、且つ、本当に**受けてほしい人は受講したがない**

日本では、「**ジェンダー**」という言葉に抵抗を示す人が多い。

研修への抵抗を可能な限り低減するために
「**ジェンダー**」を用いない性差別防止研修をつくれないうか

ジェンダー・ハラスメント（ジェンダーに基づく性差別的行為）を**職場**や**地域**からなくしていく



落語研修

被験者：市民・就業者

笑いで共感を引き出す

「落語研修」は集客が期待できるが、**実施可能な講師が限られる**



ジェンダー心理学の社会実装

[社会実装]とは、研究で得られた知見や技術を、社会課題の解決を目指して、実社会で便益をもたらすように研究開発すること

ジェンダーの問題の解決のためには、心理学の社会実装の視点や発想が必要ではないだろうか

心理学の社会実装 [就業女性へのジェンダー・ハラスメント抑止の試み]

「ジェンダー」に基づく職場の「ハラスメント」→ ジェンダー・ハラスメント

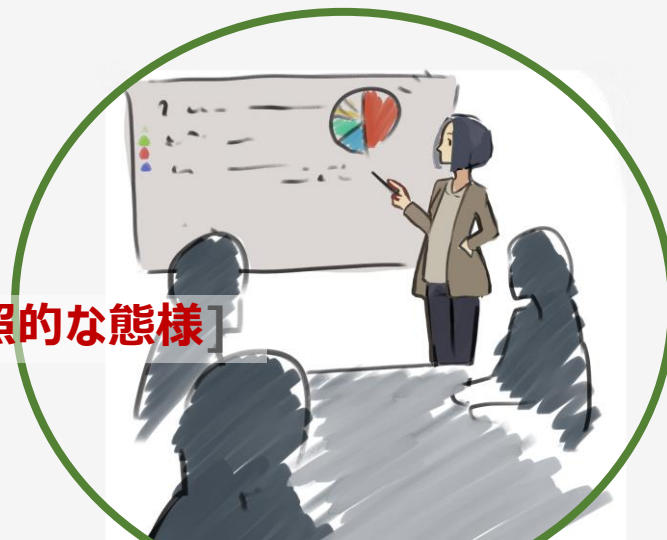
ジェンダーに基づく役割を他者に期待する言動 小林・田中(2010)

1 女性に周縁的な役割を押し付ける→**する**：作為

おちゃいれ、コピーとり

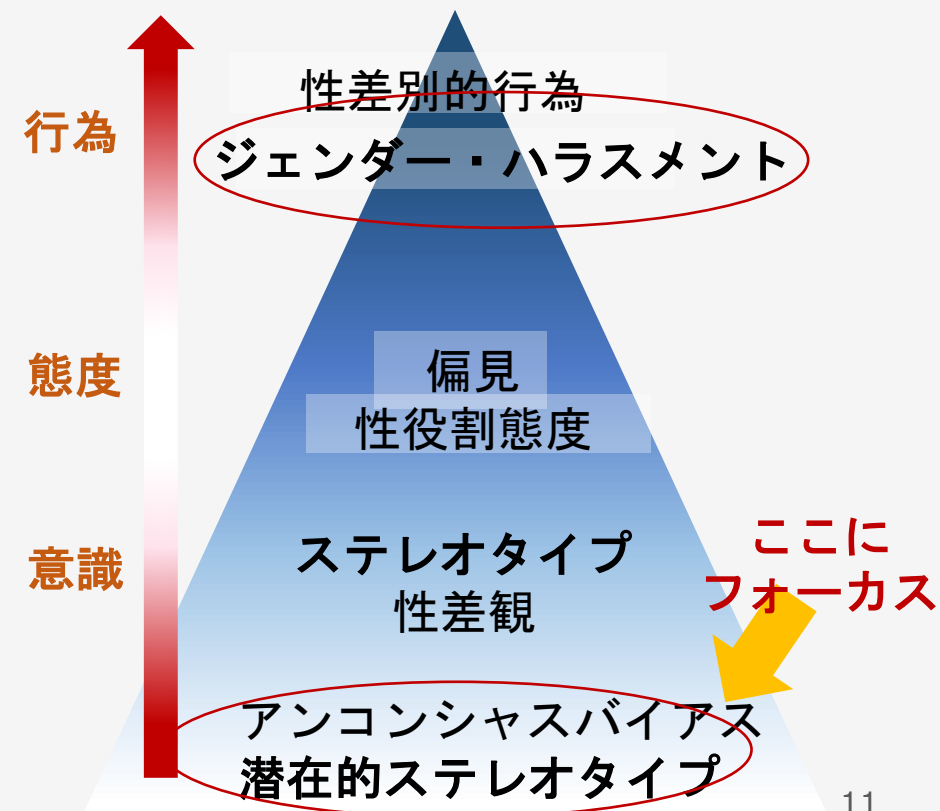


[2つの対照的な態様]



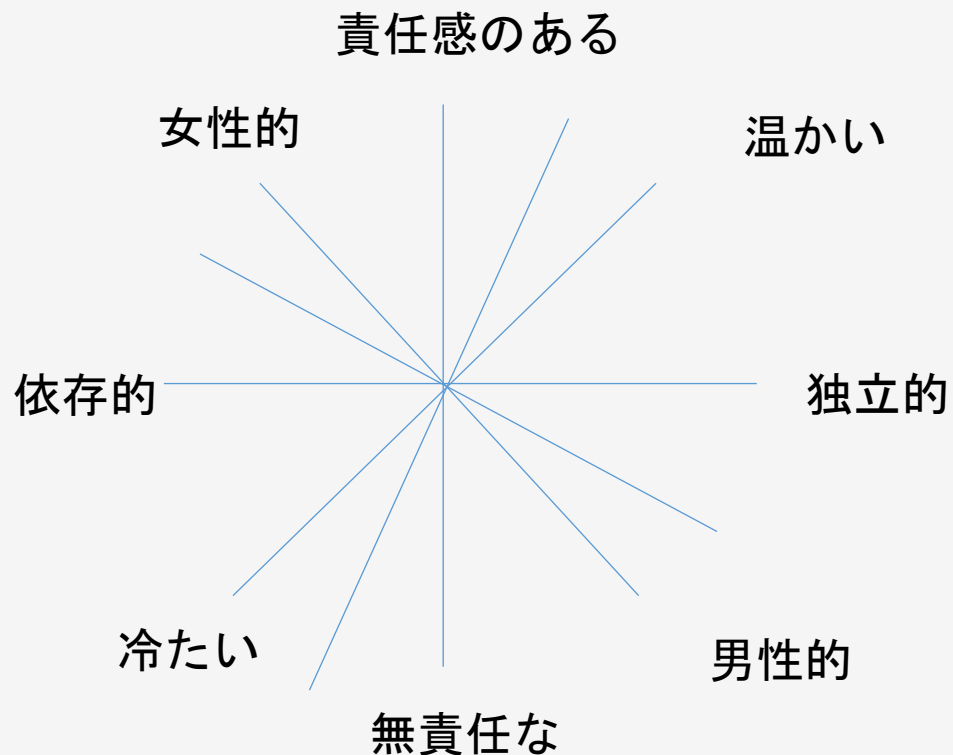
リーダー・重要な仕事をさせない

2 女性を中心的役割から遠ざける→**しない**：不作為



認知的複雑性(Cognitive Complexity)

認知的複雑性：Bieri（1955）の提唱した概念で、複雑なことを複雑なままに理解する個人の能力



認知的複雑性は、概念の分化の程度だけではなく、統合の程度も示している(坂元, 1998)。

認知的複雑性の高い個人は、柔軟で弾力性のある認知システムをもつため、葛藤情報をうまく統合できる(池上, 1983)。

ステレオタイプは、特定の集団の成員に対する過度な一般化から生じる



複雑なものと複雑なままに捉える能力が高まれば、ステレオタイプの認知が緩和されるのではないかな？

認知的複雑性を高める研修を構築（CCT: Cognitive Complexity Training）

研修では、**戦略的**に「ジェンダー」「ハラスメント」を説明しない

Kobayashi & Tanaka(in press)

→なぜなら「差別」「ジェンダー」を明示することが逆効果となる場合があるから



レクチャー

- 1 同僚を多面的にとらえる重要性についての講義
- 2 認知的複雑性の理解を促す簡単なぞなぞ（文章と図形）



ワークショップ

- 1 同僚4人を選び、その人達を形容する言葉をできるだけ多く書き出す
- 2 4人から自分自身がどのように見えているか想像し、自分を形容する言葉をできるだけ多く書き出す
- 3 同僚4人の中から2人を選び、彼らが互いにどのように見えているか想像し、互いを形容する言葉をできるだけ多く書き出す

研究の手続きと参加者

Kobayashi & Tanaka(in press)

1. インタビューの内容を参考に研修プログラム（認知的複雑性研修：CCT）を作成
2. パイロット・スタディを就業者9名に実施し、プログラムを改良
3. CCTをある会社（栃木県）の就業者20名に実施してデータを分析

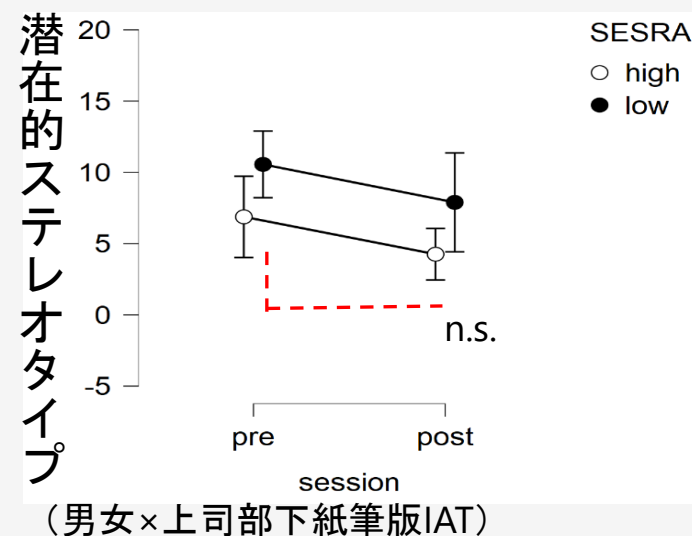
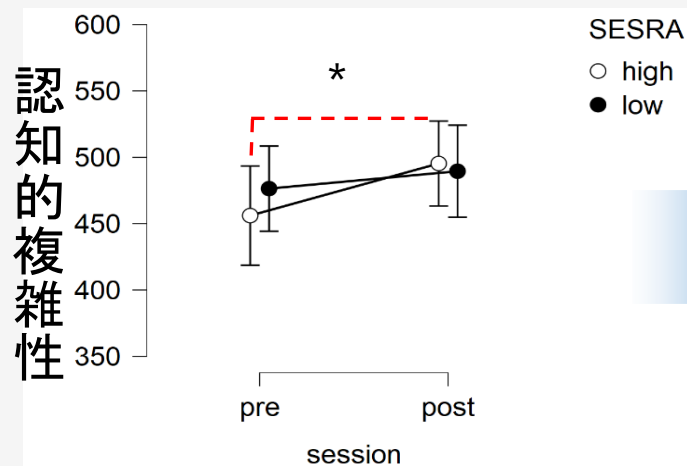


SESRA : 性役割態度 CC : 認知的複雑性 IAT : 潜在的連合テスト(潜在的ステレオタイプ)
GH : ジェンダー・ハラスメント

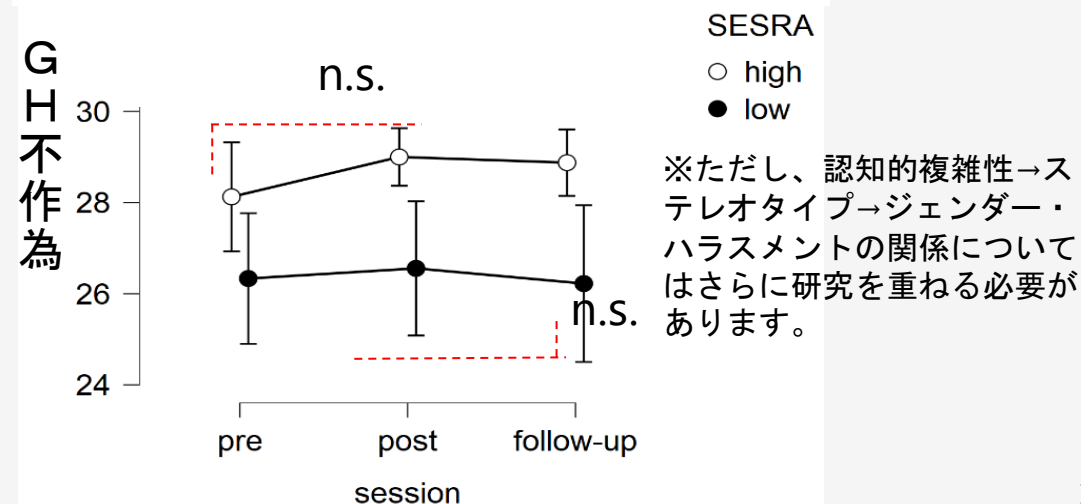
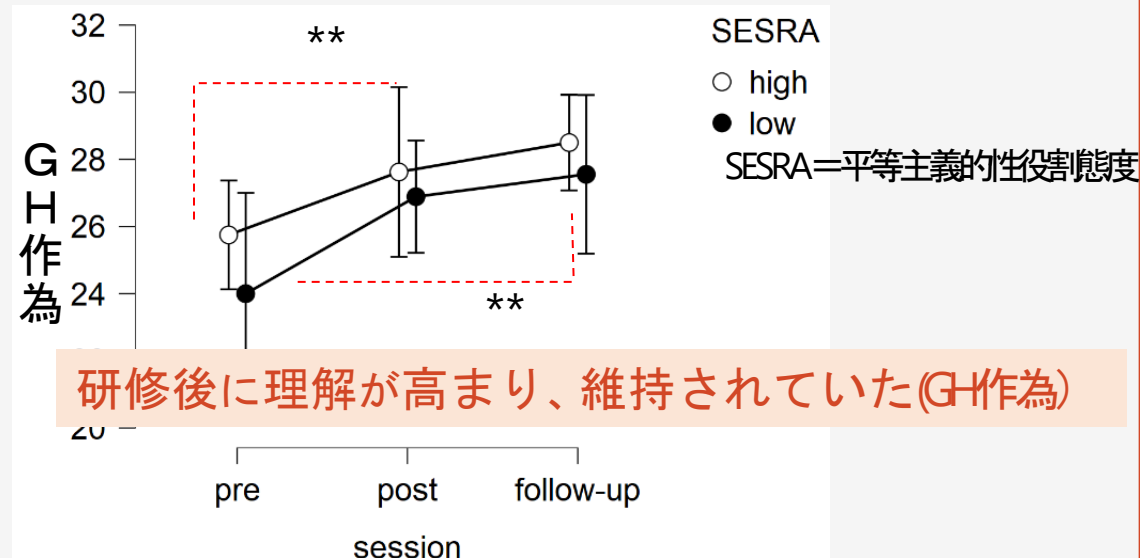
「ジェンダー」の研修をしないで「ジェンダー」差別を抑止

認知的複雑性研修 (CCT) の実施前・後、事後の変化 (Kobayashi & Tanaka, in press)

CCT (認知的複雑性研修) の実施



ジェンダー・ハラスメント作為が変化



実社会からジェンダーに基づく差別的行為を減らしていくために



1

心理学研究に社会実装の視点や発想を
心理学の知見を実際の社会の差別解消に役立てる

2

心理学の知見を社会に伝えていく

巷にあふれるステレオタイプを助長する言説
たとえば「男性脳・女性脳」に警鐘を鳴らしていこう



引用文献 1

Bieri, J. (1955). Cognitive complexity-simplicity and predictive behavior. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 51, 263-268.

Blair, I. V., Ma, J. E., & Lenton, A. P. (2001). Imaging stereotypes away: The moderation of implicit stereotypes through mental imagery. *Journal of Personality and Social Psychology*, 81, 828-841.

Fitzgerald, L. F., Gelfand, M. J., & Drasgow, F. (1995). Measuring sexual harassment: Theoretical and psychometric advances. *Basic and Applied Social Psychology*, 17, 425-445.

Fitzgerald, L. F., & Cortina, L. M. (2018). Sexual harassment in work organizations: A view from the twenty-first century. In White & C. Travis (Eds.), *Handbook on the Psychology of Women*. Washington, DC: American Psychological Association.

Greenwald, A. G., McGhee, D. E., & Schwartz, J. L. K. (1998). Measuring individual differences in implicit cognition: The implicit association test. *Journal of Personality and Social Psychology*, 74, 1464-1480.

林 文俊(1976). 対人認知構造における個人差の測定(1) 認知的複雑性の測定についての予備的検討—名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), 23, 27-38.

池上知子(1983). 印象判断における情報統合過程の特性—認知的複雑性—単純性との関連で—心理学研究 54, 189-195.

石井 国雄, 沼崎 誠(2011). 自己価値への脅威が男性のジェンダーに関する潜在的態度に及ぼす影響 社会心理学研究, 27, 24-30.

石井国雄・沼崎 誠(2012). 自己価値への脅威が男性の女性に対する潜在的偏見に及ぼす影響 対人社会心理学研究, 12, 67-76.

Magley, V.J., Hulin, C.L., Fitzgerald, L.F., & DeNardo, M. (1999). Outcomes of self-labeling sexual harassment. *Journal of Applied Psychology*, 84, 390-402.

Munson, L.J., Miner, A.G., & Hulin, C. (2001). Labeling sexual harassment in the military: An extension and replication. *Journal of Applied Psychology*, 86, 293-303.

小林敦子 (2015). ジェンダー・ハラスメントに関する心理学的研究—就業女性に期待する「女性らしさ」の弊害— 風間書房. ¹⁷

引用文献 2

小林敦子(2016).配偶者からの暴力に関する研究の動向.日本大学大学院総合社会情報研究科紀要.17,166-177.

小林敦子・田中堅一郎 (2010). ジェンダー・ハラスメント測定尺度の作成 産業・組織心理学研究, 24, 15-27.

Kobayashi, A. & Tanaka, K.(in press). Cognitive complexity training reduced gender harassment in a small Japanese company, Japanese Psychological Research.

坂元章(1988).認知的複雑性と社会的適応-分化性と統合性による認知システム類型化の試み- 心理学評論, 31, 480-507.

潮村公弘 (2015).潜在連合テスト(IAT)の実施手続きとガイドライン
1)2) 一紙筆版 IAT を用いた実習プログラム・マニュアルー 対人社会心理学研究,15, 31-38.

Spencer, S. J., Fein, S., Wolf, C., Fong, C., & Dunn, M. (1998). Stereotype activation under cognitive load: The moderating role of self-image threat. Personality and Social Psychology Bulletin, 24, 1139-1152.

鈴木淳子 (1994). 平等主義的性役割態度スケール短縮版 (SESRA-S) の作成 心理学研究, 65, 34-41.

鈴木淳子・柏木恵子(2006).『ジェンダーの心理学：心と行動への新しい視座』(心理学の世界 専門編5) 培風館.

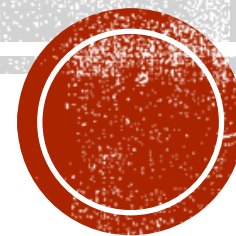
Wegner, D. M., Schneider, D. J., Carter, S. R., & White, T.L. (1987). Paradoxical effects of thought suppression. Journal of Personality and Social Psychology, 53, 5- 13.

山本真菜・岡 隆 (2016). ステレオタイプ抑制による逆説的効果の個人差：認知的複雑性との関係 社会心理学研究 31, 149-159.

社会学より

社会学とジェンダー視点

伊藤公雄（京都産業大学・日本社会学会）



はじめに 男性主導社会としての近代

近代社会の解剖の学として誕生した社会学の視点から、近現代社会のジェンダー構造についてアウトラインを描いてみようと思います。

言語学の用語としてのジェンダー

背景には世界認識と分類（二項図式）

→文化や歴史における多様性

多様なジェンダー図式 （さらに身分＝階層によるジェンダー規範の多様性）

近代工業社会の登場とその変容（世界規模で基本的に「相似形」の二項図式へ）



近代工業社会とジェンダー構造

近代工業社会とジェンダー構造

男性＝「生産」労働＝有償労働

女性＝再生産（ケア）労働＝無償労働

国民（成人男性）皆兵⇔近代国民（＝男性）国家形成

前近代の地域によって多様な（ヴァナキュラーな）ジェンダー

強固な身分制度（男女の違いよりも身分の格差が大きい社会）

→男女の間の大きな社会的断絶の形成

文化や社会を超えて、工業化の中でほぼ同様の二分類が固定化

Cf.経済セックス（イリイチ）



1 ジェンダー＝社会的構築物

社会的構築物としてのジェンダーの視点

1950年代 心理学や性科学（マナーら）による生物学的性差とは異なる性別の指摘

1970年代前半 フェミニスト社会学者たち（オークレー、1972）

→社会的に構築された性別の視座

←女性解放運動と社会学における構築主義の登場

←社会的に構築される「現実」への視点



2 ジェンダー：社会学の視点

社会学はジェンダーをどう考えるか？

成立期の社会学 独自のディシプリンとしての社会学研究对象

①社会的行為（ウェーバー） 他者を意識した有意味的行為

（方法論的個人主義＝「社会唯名論」）

②（心的）相互作用（ジンメル）の形式 相互作用が「社会」を生成

→個々の具体的現象を貫く一定のパターン（形式）の存在（形式社会学）

③社会的事実（デュルケーム）社会は、個人に先立って存在、外側から個人を拘束

（方法論的集団主義＝「社会实在論」）



ジェンダー構造の形成と再生産

ジェンダーをこの3つの視座から眺めると

- ①相互行為の中での他者の期待への相互依存（二重の条件依存性＝ダブルコンティンジェンシー、パーソンズなど）⇔相互に共有されたジェンダー規範の存在
＝秩序だった安定した相互行為へ
- ②発達期の相互作用（役割取得＝ミードなど）によるジェンダー役割の取得
→日々の行為の中での調整を通じて持続
- ③構造化（一定の恒常的な仕組みの形成）されたジェンダー秩序
→個人を外側から拘束



現代社会学理論とジェンダー

現代社会学理論とジェンダー

構造化理論（ギデンス）

ハビトゥス論＝構造化する構造・構造化される構造論（ブルデュ）など

あらかじめ存在している「構造」の規定によって行こなわれる行為が、さらに「構造」を補強しつつダイナミックに生成・展開するという理論的整理。

→ジェンダー理論にも適用されていく。



3 支配と依存＝男性性研究の視点

マジョリティ研究としての男性性研究（伊藤、2009）

「支配する側」の無自覚さ

男性性と女性に対する「支配」（＝権力行使）と依存

優越指向・所有指向・権力指向（伊藤、1984）

ヘゲモニックな男性性（コンネル、1987） 支配される側の「同意」と巻き込み

支配と依存（伊藤、2003＝2009など）

→（特にケアの面での）男性の無自覚な女性への依存（伊藤、2021）



4 ゆらぐジェンダー秩序

変容する産業構造 4つの産業革命

第一次（蒸気機関と鉄道網）第二次（電気エネルギーと大量生産・大量消費）

＝「生産労働」＝男性主導のジェンダー秩序

工業社会＝男性主導社会の終わり←第三次産業革命（情報やサービスを軸にした産業）

⇒ 1970年前後の文明史的転換

社会的マイノリティの人権・環境問題（自然との共生）などの新たな課題

均質性と中央集権を軸にした社会から多様性と分権の社会編成へ

21世紀 第四次産業革命(AIとIoTを軸にした産業)へ

←完全にこの変化に取り残された日本社会＝30年の社会の停滞



新自由主義とジェンダー

新自由主義の展開

あらゆるものが資本の増殖のための動きに動員される仕組み



性別に関わらず「カネになる」能力の活用、多様な資源をもつ一部の男性女性の一層の富裕化
不安定な女性労働の一層の搾取（非正規労働などの拡大）、資源を持たない男性の不安定化

→格差の釈迦私的拡大とジェンダー秩序のゆらぎ

この流れから取り残された「男たち」

剥奪感の男性化 Masculinization of Deprivation (伊藤、2018a)

男たちの社会病理的行動の広がり 無差別的暴力、フェミサイド

Toxic Masculinity の広がり

女性のエンパワーメント政策の一層の展開

男性対象のジェンダー平等政策の必要性



5 ケアとジェンダー

変化の中で

近代社会で主に女性に割り当てられてきたケア労働の見直し

2010年代以後の国連やEUの男性対象のジェンダー政策の拡大

キーワードの一つ Caring Masculinity

男性の「ケアの力」(伊藤、2021他)=自他の身体、生命、思いへの配慮の力への注目

Cf. コロナ対応と男性性(ジェンダー) Cf. 伊藤、2021

→ケアを基軸にした人間と人間、人間と自然の関係の再生(修復)

Cf. ケアとリペア(ナオミ・クライン、2020)



6 変容するジェンダー概念

拡大・変容するジェンダー概念（伊藤、2018b）

性差医療（gender-based medicine）

性差研究に基づく技術革新（gendered innovation）

生物学的性差と社会的に構築された性別（従来のジェンダー）の双方に敏感な視座

生物学的性差研究（最近は、性のスペクトラム論も広がる＝多様な性）の深化

しかしそれが性差別と結びついてはならない！という視点

←リプロダクティブ・ヘルス・ライツの重要性



おわりに ジェンダー平等へ

ジェンダー平等（＝男性主導の仕組みを根本的に転換し、男女の性別二元論に基づく差別や排除の構造の撤廃）に向けて

⇒SOGI（性的指向と性自認・性同一性）の多様性

多様性に開かれた公正な社会に向かって



参考文献

Connell, R., 1987 *Gender and Power*, Stanford UP.

伊藤公雄 1984 「＜男らしさ＞の挫折」作田圭一・富永茂樹編『自尊と懷疑一文芸社会学をめざして』、筑摩書房

伊藤公雄 2003=2009 『「男女共同参画」が問いかけるもの』インパクト出版会

伊藤公雄 2009 「男性学・男性性研究の過去・現在・未来」天野他編『新編 日本のフェミニズム 第12巻 男性学』岩波書店

伊藤公雄 2018a 「剥奪（感）の男性化 Masculinization of deprivation をめぐって一産業構造と労働形態の変容の只中で」『日本労働研究雑誌』2018年10月号（第699号）

伊藤公雄 2018b 「変容するGender 概念」日本学術協力財団『学術の動向』2018年12月号

伊藤公雄 2021 「新型コロナ禍が映し出した社会～ケアとリペアのデモクラシーに向かって」日本学術協力財団『学術の動向』2021年12月号。

Klein, N., 2020 “Democratic Socialism for a Climate-Changed Century”, in Aronoff, K., P. Dreier and M. Kazin., *We Own the Future*, The New Press.

